

第4回電子光技術シンポジウム



2015年2月18日、秋葉原UDXカンファレンスにおいて、産総研 電子光技術研究部門主催、当協会共催の第4回電子光技術シンポジウムが開催された。当日は産業界並びに関係研究機関等から131名の参加があり、この分野に対する関心の高さを感じさせた。今年度は「超短パルスレーザーの応用とポータブルセンサの未来」をテーマとして、6件の招待講演を含む11件の口頭発表とセンサに関するパネルディスカッションが行われた。

午前には「超短パルスレーザーの応用」に関する講演が行われ、まず、パラダイムレーザーリサーチの鷲尾邦彦氏より「世界のレーザー応用技術動向」と題して、世界の超短パルスレーザーに関する取り組みが紹介された。理化学研究所の緑川克美氏からは「理研における光量子工学戦略」と題して、理研の最先端の研究開発の概要紹介があった。産総研 環境化学技術研究部門の新納弘之氏からは「CFRP材料のレーザー加工～技術研究組合ALPROTの成果～」と題して、約5年間の国プロの成果が報告された。続いて、産総研 電子光技術研究部門の欠端雅之氏から「フェムト秒レーザー照射による物質プロセスと応用」、同部門の吉富大氏から「多波長合成による超短パルス光技術の展開」と題した講演が行われ、参加者の注目を集めた。

午後は「ポータブルセンサの未来」に関する講演が行われ、産総研 電子光技術研究部門から「高感度生体分光装置と非侵襲血液計測への応用」（古川祐光氏）、「V溝バイオセンサ」（芦葉裕樹氏）、「導波モードセンサ：レビュー」（藤巻真氏）と題して、ポータブルセンサに関する最先端の研究開発成果が報告された。続いて、「センシング材料と化学センサ開発」（慶應義塾大学 鈴木孝治 教授）、「固液界面の機能化とバイオランジスタ」（東京医科歯科大学 宮原裕二 教授）、「アジア水プロジェクトにおける水質センサ開発」（産総研 環境管理技術研究部門 鳥村政基氏）といった幅広い内容の3件の招待講演が行われた。最後に、講演者をパネラーとして壇上に迎え、「センサ開発の将来展望」と題したパネルディスカッションが行われた。当該分野に関心を寄せる多くの参加者との有意義な議論が展開され、大盛況のうちにシンポジウムは閉幕した。